

財田翔悟



漆原夏樹

漆原夏樹 財田翔悟 二人展 ー未ー

プレスリリース

会期 | 2023年10月20日（金）～11月4日（土）

会場 | ギャラリー広田美術

時間 | 11：00～19：00（土のみ18時まで）

休廊 | 日月祝

ギャラリー
広田美術

ギャラリー広田美術

1040061 東京都中央区銀座7-3-15

0335711288 | info@hirota-b.co.jp

<http://hirota-b.co.jp/>

漆原夏樹 財田翔悟 二人展 - 未 -

ギャラリー広田美術では、10月20日（金）から11月4日（土）まで「未」と題した漆原夏樹と財田翔悟による二人展を開催致します。

今回の展覧会のタイトルは二人展の企画発端の際に、二人で未知数なことができたなら面白いのでは、という会話から出てきたものです。作家として未完であることは可能性でもあるとポジティブに捉え、表現や思考の幅を広げるひとつのきっかけとして二人展を開催する運びとなりました。

未だ見ぬものが何なのか知りたい、表現してみたい、見てみたいという気持ちは作家の制作の根源のひとつだと思います。今回の二人展では、ふたりが未だやったことのない試みを積極的に取り入れた新作を発表致します。

これまで漆原は「存在の在り様」を、財田は「愛情」を大きなテーマに掲げ、共通して生活の中の「身近な存在」を描き続けてきました。ふたりは同郷でもあり、同じ星野真吾賞大賞を受賞したりするなど、重なり合いながら、お互いに活躍の場を大きく広げ意欲的に発表をしている作家たちです。

「未」は辞書で引くと、「まだその時がきていない」という文章で表されていますが、前後に付く言葉が今後起こりそうと予感をさせる不思議な文字です。

今回の二人展では「未」の付く単語をキーワードにふたりのイメージを描き出します。

同じ単語でも人によって想像するものが変わるのは当たり前のことだと思う反面、日常生活ではそれを「普通」という概念の中で統一していくことも多いと思います。

自分だったら、と想像し楽しみながら彼らの作品に向き合ってくださいと幸いです。

また、ふたりは同じ神奈川県出身で2013年に「鎌倉美術研究所」（通称：カマケン）で出逢い、今年で20年という節目になります。講師と教え子という関係から20年を経て、作家同士へと関係性を变化させたふたりの初めての二人展です。是非ご高覧いただきますよう、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

絵を描くことも予測通りに行くことはほとんどなく、画面の出来事を身体に浸透させながら、善いと思われる方向へ向かって行く、行き止まりだったり振り出しよりも後退したりと、ままならないことと一緒に進んで行く。

以前は行き止まりに無理やり道を作るように描いていたが、最近のままならない世界と呼応するように絵を描くことが出来るようになってきた。それは、何も見えない、はっきりしないことのなかに僥倖を見い出し、そこに存在するもの全てを祝福することでもある。その痕跡を絵画として結晶化することで、少しでも世界と肯定的に関われるように、そのように希求しながら筆を取っている。／漆原夏樹

「まだ」出来ていないことや訪れていない事象を認識するのは自分の現在の立ち位置を確認する作業でもある。今回の展覧会はその作業を行い、自分たちの可能性を洗い出す作業にもなりえるし、そこから一步踏み出すことを試みる作品制作となるだろう。

今回の作品では各テーマに沿わせて、自身の今まで取り組んだことのないモチーフや、今まで行ってきた仕事から少しだけ展開させたものを作り出そうと思う。「まだ」今の自分にはない可能性を広げる作品を展示する。／財田翔悟

1977年生まれの漆原夏樹は、東京芸術大学大学院美術研究科日本画専攻を修了後、個展を中心に制作を続けている作家です。2013年の個展より人物と風景を中心にした作品を描き始め「存在のあり様」を表現しようと制作してきました。昨年22年に開催した個展「パラノイア・パレイドリア」では、コロナ禍を過ごしたことでより一層「人そのものを象徴する景色」を描けないか、と制作した新作を発表しました。

1986年生まれの財田翔悟は「幸福」をテーマに制作を続けている作家です。作家の身近な人やものをモチーフとして描かれた作品から鑑賞者が自身の身近な人やものと重ね合わせその存在の重要性を省みる機会を与えられないか、ということを試みています。2021年には上野の森美術館ギャラリー、2022年には佐藤国際文化育英財団・佐藤美術館にて個展を開催し、漆原同様、個展を中心に制作を続けている作家です。

是非ご高覧いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

展覧会 開催概要

漆原夏樹 財田翔悟

二人展 ー 未 ー

会期 | 2023年10月20日（金）～11月4日（土）

時間 | 11：00～19：00（土のみ18時まで）

休廊 | 日月祝

会場 | ギャラリー 広田美術

住所 | 1040061 東京都中央区銀座7-3-15

mail | info@hirota-b.co.jp

電話 | 0335711288



財田翔悟「door」15S (65.2×65.2cm)
綿布、ピグメント、岩絵具、アクリル絵具、箔、プラチナ泥／2023年

略歴

漆原夏樹 | 略歴

- 1977年 神奈川県生まれ
- 2001年 東京芸術大学絵画科日本画専攻卒業
- 2003年 東京芸術大学大学院美術研究科日本画専攻修了

- 2013年 個展（ギャラリー広田美術 | 東京）
（同15、17、19、22年）
- 2014年 「第6回トリエンナーレ豊橋 星野眞吾賞展
明日の日本画を求めて」大賞受賞
（豊橋市美術館 | 愛知）
- 2015年 【From now on!!】第1期
『Visualize -それぞれの心象風景』
（藤沢市アートスペース | 神奈川）
- 2016年 「Seed 山種美術館 日本画アワード 2016
—未来をになう日本画新世代—」入賞
（山種美術館 | 東京）

財田翔悟 | 略歴

- 1986年 神奈川県生まれ
- 2014年 東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻
日本画領域修了

- 2014年 美術新人賞デビュー2014 グランプリ受賞
- 2016年 個展（ギャラリー広田美術 | 東京）
（同17-22年）
- 2017年 第7回トリエンナーレ豊橋「星野眞吾展」
星野眞吾賞（大賞）受賞
（豊橋市美術館 | 愛知）
ファインアートユニバーシアード U-35 受賞
（茨城県つくば美術館 | 茨城）
FACE展 2017 入選
（損保ジャパン日本興亜美術館 | 東京）
- 2019年 第8回東山魁夷記念日経日本画大賞
（上野の森美術館 | 東京）
- 2021年 「財田翔悟展 -HOME-」
（上野の森美術館 | 東京）
- 2022年 「財田翔悟展
—言葉にかけてはおぼつかないものだから」
（佐藤美術館 | 東京）

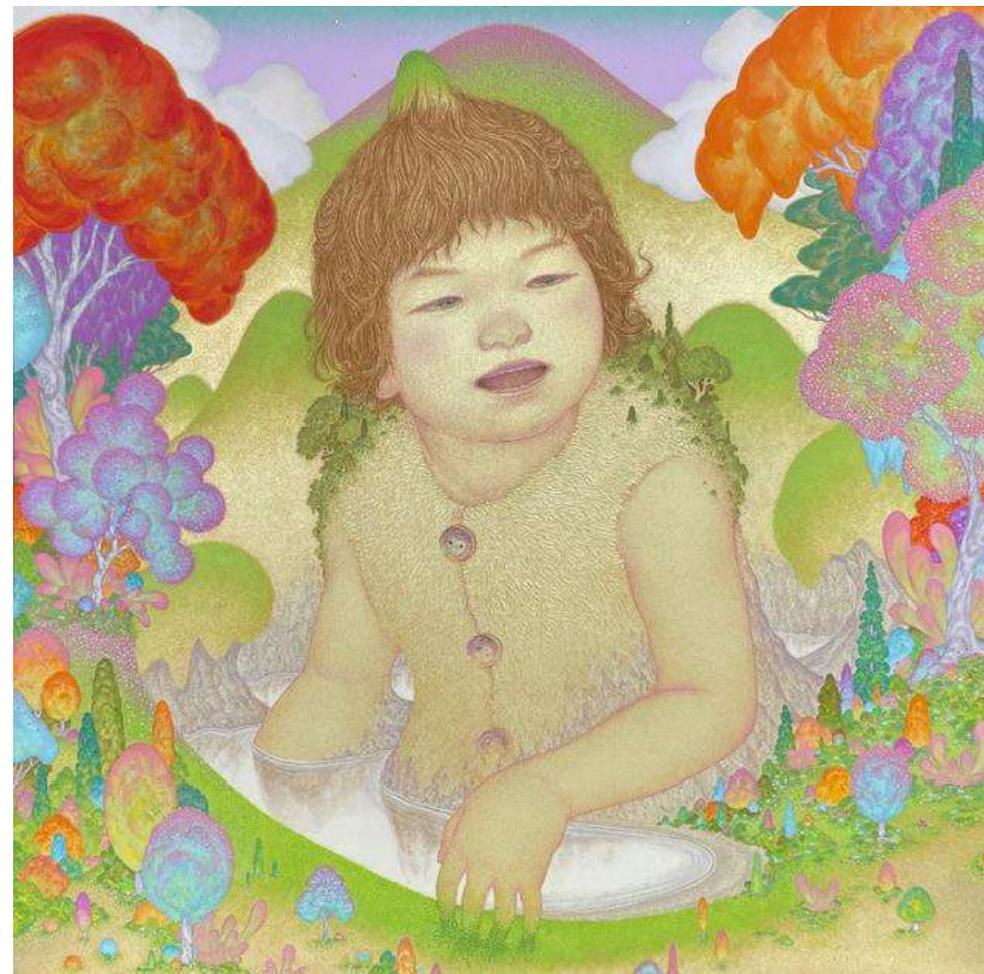
漆原夏樹 | ステイトメント

日々、不確実なことや不測の事態に苛まれるなか、絵を描くことで世界と交信し、自分の座標を見失わずに過ごすことができているように最近強く感じている。

自分の手の届く範囲外でも以前にも増して先を見通せなくなってきたおり、そこには常に予測不能、不確実な事象が横たわっている。

あらゆる未知に最善手を選び対応していくことは困難を極め、そこでは未知であることがおおよそ、我々の敵にまわっているように感じてしまう。

しかし、立ち位置によっては見え方も全く変わる、人のスケールで考えると悲劇でしかないものが大いなる恵みになる場合もある。



漆原夏樹「楽園開闢 (かいびょう) 図」15S (65.2×65.2cm)
紙本彩色／2023年

財田翔悟 | ステイトメント

今回の展覧会に出品作品を制作するうえですべての作品に「未」という言葉からなる熟語をテーマに据えられたわけだが、案外こういったことで制作をスタートさせることはあまりなかった。

もちろんテーマがあったり、言葉から連想する作品だったりがないわけではないのだが、自身で作品を作り出す際はもっと漠然とした言葉にならないものを形にしていく作業が多かった。

そういった面では初めての試みであり、挑戦であるといえる。

「未」という言葉は「まだ」ということ言葉に置き換えられる。

そう考えると作品作りをする自分としてはどうしても未完(まだ完成していない、終わらない)などマイナスな感情が浮かんでしまうのだが、よくよく考えると基本的にはフラットな言葉だなと感じる。

不確定でありながらゼロではない、可能性がある状態、現在を表す言葉なのではないだろうか。

「まだ」出来ていないことや訪れていない事象を認識するは自分の現在の立ち位置を確認する作業でもある。今回の展覧会はその作業を行い、自分たちの可能性を洗い出す作業にもなりえるし、そこから一步踏み出すことを試みる作品制作となるだろう。

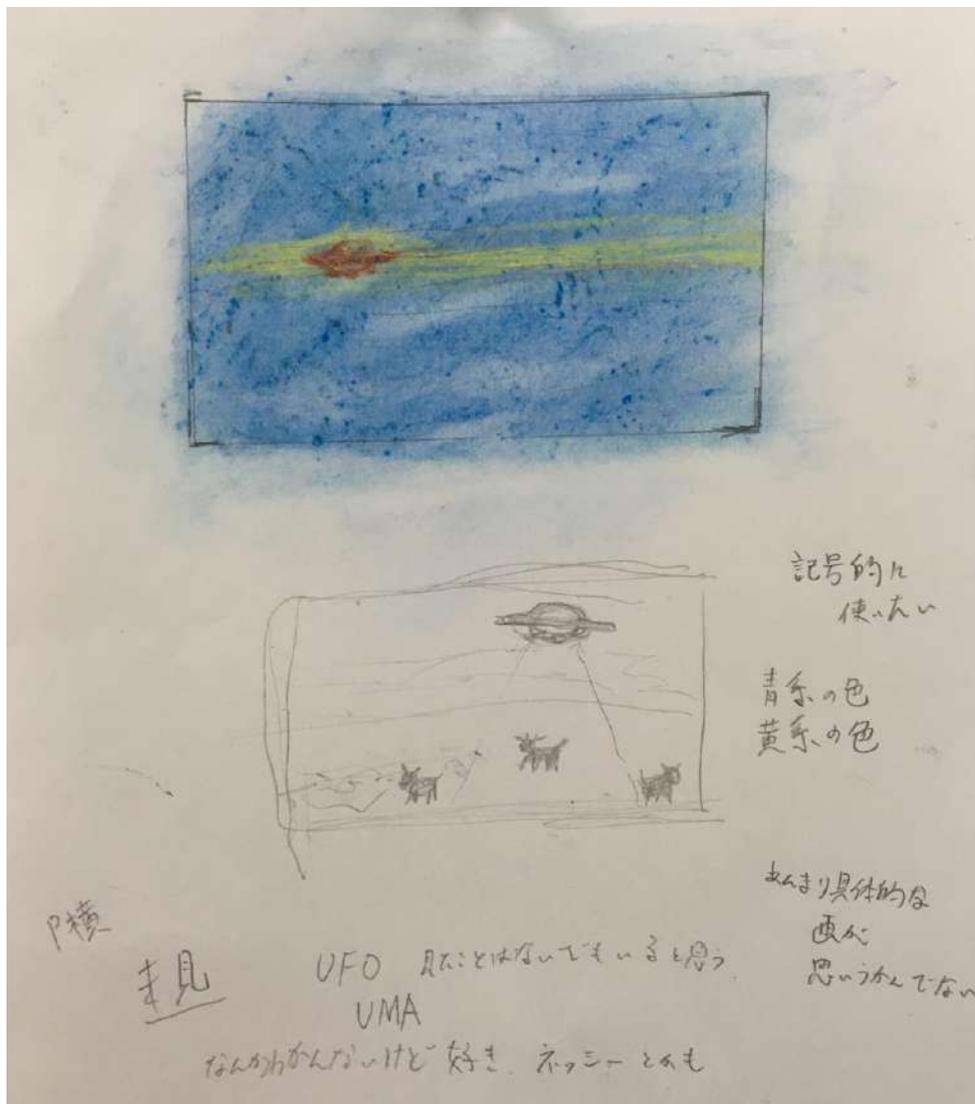
今回の作品では各テーマに沿わせて、自身の今まで取り組んだことのないモチーフや、今まで行ってきた仕事から少しだけ展開させたものを作り出そうと思う。「まだ」今の自分にはない可能性を広げる作品を展示する。

最後に今回一緒に展示を行う、尊敬すべき先輩である漆原夏樹さんとの関係について。

漆さんと出会ってもう20年近くになる。私は高校2年生、漆さんは大学院生か大学を出たばかりの時期だったはずである。予備校の教え子と講師という関係だった。日本画に関わることになったのも、今絵を描き続けているのも漆さんの存在は大きな要因で絵描き人生の要所で現れる人物だと感じている。

漆さんはあまり今回の展示に関してこういったバックグラウンドを示したくはないようだが、私はこの展示が出来て嬉しい。今回の展示で現在の自身の成長を示したい。

展示予定作品



今回の二人展では、同じタイトルを通してふたりの作品を見ていく。平面5点と立体1点の全6点の新作を展示予定。企画発端の際に「未」のつく単語、言葉などをいくつか挙げながら作家も交えてイメージを膨らませていった。これまでの個展などとは異なり、エスキースやテキストを作成し、それをオープンにお互い会話をしながら企画をすすめた。

掲載用省略テキスト

見出しイメージ

漆原夏樹、財田翔悟による「未」と題した二人展を開催

200字以内

10月20日（金）から11月4日（土）まで銀座・ギャラリー広田美術で「未」と題した漆原夏樹と財田翔悟による二人展を開催。作家として未完であることは可能性でもあるとポジティブに捉え、表現や思考の幅を広げるひとつのきっかけとして二人で未知数なことができたなら面白いのでは、という会話を企画の発端にしたはじめてとなる二人展ではふたりが未だやったことのない試みを積極的に取り入れた平面、立体などの新作を発表する

100字以内

10月20日（金）から11月4日（土）まで銀座・ギャラリー広田美術で「未」と題した漆原夏樹と財田翔悟による二人展を開催。ふたりが未だやったことのない試みを積極的に取り入れた新作を平面、立体などで発表する

展覧会のお問い合わせについて

この展覧会へのお問い合わせは以下までお願い申し上げます。

ギャラリー広田美術 担当 | 江上
メール | info@hirota-b.co.jp
電話 | 03-3571-1288



<http://hirota-b.co.jp/>

ギャラリー
広田美術

ギャラリー広田美術

1040061 東京都中央区銀座7-3-15

0335711288 | info@hirota-b.co.jp

<http://hirota-b.co.jp/>